

0643

救難事業報告

雜件

の  
4

0644

海軍省 七月五日	軍務局長 第一課長 局長	大正十五年七月五日 省副官	ヤング・タイスト社宛	救難事例：関スル件	六月十九日附海軍會及候本件別紙ノ旨	右回答ハス	(別紙ニ葉添)	(終)			
-------------	--------------------	------------------	------------	-----------	-------------------	-------	---------	-----	--	--	--

模造半葉十三行罫紙

海軍

日本海軍カ外國艦船ヲ救難セル事例一覽表  
(大正元年以降)

英海軍第十三行隊紙

國別	遭難艦船名	年月日	遭難場所	救難艦船	救難概況
獨國	汽船 サイゲンヤ	大正元年 十月五日	濃務ノ為巨文島燈台 附近ニ坐礁ス	運送船 若宮丸	無事離礁セル
獨國	汽船 グイタソクマー	大正元年 十月四日	大同江口ニ坐礁ス	軍艦鈴谷 白銀丸	獨艦ニ云デントハ湖カシ 十月五日離礁セル
英國	汽船 パトロクス	大正元年 十月十日	大連ニ向ケ航行中渤海 灣ニ於テ推進機被損ス	水雷艇鷗 同	十月十七日救助ノ為 本港ニシテ遭難セルハ 英艦「モンマス」ニ カレ行ケリ
露國	汽船 ホルタワ	大正元年 一月一日	三国港ニ碇坐ス	軍艦千歳 聖靈丸	引卸ラ試ミタルセ 不可能ノ為帰港
支那	汽船 ジヤンク船 (船名不詳)	大正三年 十月五日	彼南トツエ島ノ間	軍艦筑六	航行中遭難セル ヲ救助ス

英

軍

英國	汽船 ナイル	大正四年 十月十日	山口縣徳島郡和島 附近棚生現没	第五艦隊	第一艦隊麾下ノ駆 逐艦ハ協力使索ニ 努メシモ全船ハ沈没 シ兼負ハ他船ニ救助 セラル
英國	汽船 サート ツチヤード オード ドリー	大正四年 二月四日	秦皇島附近 西岸北角北約十哩 附近ニテ氷ニ鎖カル	軍艦 千代田	二月十日以來遭難地ニ 向ケテ數回北航シタル ニ毎ニ堅氷ニ度シラレ 接近スルハコトヲ得ス オードリレハ二月十五日 自カヲ以テ氷原ヲ脱ルハ
露國	義勇艦隊 汽船 シニヤン	大正四年 二月十八日	伊予國松前沖海岸 坐州ス	軍艦南蘇	三月三日無事引却ラリ
露國	汽船 シニヤン	同	同	第五艦隊 吳九	同
米國	汽船 ミネソタ	大正四年 四月十日	山口縣下宇和島 坐雄ノス	軍艦八雲	四月十日ヨリ遭難地ニ 碇泊シ乗客及行本等ノ 一部ヲ他船ニ移シ 方援助又引却方ニ就キ 大形中軍艦離ノ見 以テシテ十五日同地ヲ去ル

露國	露國	露國	露國	支那	露國
露人所有 ヨット	商船 Amelia	義勇船隊 汽船ヤ拾号	汽船 シンビルスク	ジャンク船 (船名不詳)	軍船 ペリスエート
大正七年 首十日	大正七年 四月七日	大正七年 三月九日	大正六年 上月十日	大正五年 八月十四日	大正五年 五月十五日
シビール海 島東方	新嘉坡サルタン 港	本浦港島島西方 ニ停泊ス	東経百五度五分北緯 六十度十分地英ニ 於テ遭難ス	旅順港外柏嵐沖ニ 遭難	浦塩斯德港外擱坐
軍船石見 飛艇水雷艇	駆逐艦時雨	駆逐艦 朝霧	第五駆隊 延橋丸	黄金丸	救難船 波橋丸
露国人ニ乗來船航ヲ 破損シ進退自由ナラス 救助ヲ求メツ、アルヲ發見 是ヲ引渡シ方ニ戻航ス	船客八百五十名ヲ米 商船ニ移乗セシム	十日午前高潮ニ乗シ自カニ 脱出シ、救助ヲ求メ、 三日後救助ヲ要ス	捜索ノ為本港マシモ 月波ノ為引込メ初五日 同船ハ自カニテ救難ス 入港セシ報告アリ	沈没マントスルヲ救助シ 積荷ノ修復航ニ船主 ニ引渡ス	人員材料等ヲ救遣 シ七月日引却セリ

英領全案十三行洋紙

事  
置

米 國	英 國	米 國	英 國	米 國	露 國	支 那
汽船 St. Louis	汽船 タコマ号	汽船 ハワロン	汽船 コロンビア	運送船 アバレンダ	砲艦 スメルケ	ジャンク帆船 (船名不詳)
大正九年 五月十日	大正九年 五月九日	大正八年 八月十六日	大正八年 三月二十日	大正七年 十月八日	大正七年 九月二十日	大正七年 八月二十日
長崎縣五島郡和島 東方黒母瀬ニ生座	台湾南東端擱坐	門司大字若生磯	東京灣第一海堡東方 ニ生洲	北緯三十四度十分 十九秒七分ニ漂泊	ウチヤ河セルトヤード ウチ附	青島小港の約三十分 沖ニ於テ顛覆
駆逐艦朝霧	軍艦 秋津洲	第六十八水雷艦	救難船 栗橋丸	軍艦 秋津洲	臨時海軍 派遣隊	臨時青島海軍 隊艦一隻
救助自キレテ引却自見 テ中ノ一ノ船ヲ取ル 莫三十二名同社ヨリ一 船ヲ引揚ク	救助自キレテ自力離礁ス	コケホク口バツク兵八百 六十名中平年六十八名 ヲ揚陸セシム	引却ニ從事セシメ異力 不徒ニテ救難セザリシ 舟艇ヲ為メ中止ス	馬公要港部ニ救助方 出テ救セシメ米國運送 船ヲ引ツトシ兵カレツ ルヲ以テ其ノ安全ニテ 引却ス	引却ニ努メシメ減水 甚クテ遂ニ得ル處モ	同船ヲ引却シ潮退者 二十名救助ス

獨 國	露 國	露 國	露 國	露 國
商船 ハイランド	特務船 ヌウイリー	汽船 ハツテリユー	砕氷船 ハイカル子	商船 コンドール
大正十四年 十月十七日	大正十四年 九月十五日	大正十四年 九月五日	大正十四年 一月十日	大正十四年 六月十一日
横須賀大津港を北の方提 東端の港をヨリ西方 三ノ米突堤に衝突 横坐	タリンスカマ湾	ポンゲ角に浮標	東港沖に漂流し自撞 大糸首崎沖に漂泊	千島と千島の北東に漂 巨岸の間に漂着し擱置
港務部 備後船隻	駆逐艦 樺	駆逐艦 潮	軍艦 雲	駆逐艦 魚尾 同 弥生
有手月高船、難作業ニ 従ふル	タリンスカマ湾に 壁泊検査修理中、完成 ニ上ハ自力航リ可能 ナル事確カス	捜索方露國艦隊ヨ リ依テアリテ動調査 シタルニタリンスカマ湾 壁泊検査修理中、完成 ニ上ハ自力航リ可能 ナル事確カス	船隻引却救助為危 港敷下江ノ浦也、自船 ニテ同船ノ湘江ニ合 引返ス	船隻大破ノ為乗員五 便乗者五名難シ 者ノ中船員五名乗 者余部ヲ救ヘ下 口ノスク送致ス其 他船ニテ同地ニ引 檢同將校ヲ派シ船 檢同艦隊ヲ修理 シテ乗員ヲ送リ 他船乗員ト協同シ 水ノ補給ヲ行ヒ且 通信連絡ヲ任ス

英海金葉十三行附紙

備考

一、大正十三年十三年外國艦船救難率項ナシ

二、明治時代ノモノハ記録古ク且廣汎ニ亘レル為

調査ニ可成リノ時日ヲ要ス

三、外國艦船カ難破船ヲ救助セザリシ

事例ハ記録ナシ

(終)



第 一 號

副官

東京市下谷區本郷三丁目五番地  
帝大佛敎青年會館内 官房受

ヤング イースト社

電話小石川 七六〇三番  
振替口座東京 七一五四二番

アト戸場

拜啓

弊社が昨夏以来日本の長所美點を世界に宣傳し  
し欧米人の視力に對する達意を結く目的を以て英文  
報紙ヤングイーストを創刊し之を弘く世界に頒布  
政務局長英名流報にナールオガネーカルス等の選題  
に際して甚蒙丸と我が軍艦浦風石廊、喜日によりて  
為さ小なる補助作業は我々人の勇力と我々を示めり  
ものにして特筆大勇より行部ありと存ん我が海軍が人  
道のおめに野か認致に出たはノルマントレ等の  
衆知を土庫古の遠達せよ以来多々可有之に及  
して英米人廣くして欧米人が海上に於て難破船

軍務局長

ト ス ー イ ヤ

1930

大正 年 月 日

15. 6. 27  
月 日

東京市大郷區本郷三丁目五番地

帝大佛教青年會館内

ヤング イースト社

電話小石川 七六〇三番  
振替口座東京 七一五四二番

ト ス ー イ ン グ ヤ

0652

是れ其のたゞかめき此人道的行方と教へしは杖等  
 よは違ふうきとく存在の弊社は東月号の誌上を根  
 てこの両方の矛盾とあつて世界人類の友めに成る  
 と是れ心とを喚起する存在左小は甚る勝手かきくは  
 つ其の初め海軍又は日印航が外子航又は外子人と  
 阿とよ航へ投ゆたす事例(阿波以南東) (二)外子航  
 又は外子航が航路を極効せしり(三)又は大  
 地倉等の搭乗者航路の外子航が日印人の航路の架  
 航を拒絶せしかめきことに教へたる事例も(一)を詳細に  
 航路の起り及ぶ各埠頭の申すに初め海軍の調  
 やはよる字の文句に一切記載せざることにせしめ  
 若し弊航業上して書るる方印便宜の功名

大正 年 月 日

第 一 號

東京市本郷區本郷三丁目五番地  
帝大佛教青年會館内

ヤング イースト社

電話小石川 七六〇三番  
振替口座東京 七一五四二番

は左様可成り一様及不系上 居させり  
この際別々の事を世帯に及ぼしあつた外子人をして  
おぼろの学費心を増さしあつた上に於てお勤あつた  
海上の生活を承けり 道徳心を為めり上に於ても大なる勤  
果可有る何事一任宜とあつたを承けり  
ふゆ也  
あり

以別便ヤングイースト社宛に送附

本件 日本海軍が外玉船舶を救助せしむる例を調査の上

通知ノットニ致し度 (印)

東京市本郷區本郷三丁目

帝大佛教青年會館内

ヤング イースト社

海軍省 以下

大正十五年 六月十九日

0654

徳洋丸

急

軍務局長

5590

通二普通合第一七號

大正十五年一月七日

外務省通商局長代理 齋藤良

海軍省軍務局長 小林躋造 殿

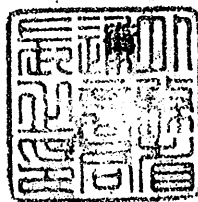
第一課長

日清汽船德洋丸海難ニ關スル件

本件ニ關シ今般在宜昌浦川領事代理ヨリ別紙寫ノ通來電アリタルニ  
付委細別紙ニテ御了知相成度右不取敢茲ニ通報ス

軍務第一  
三  
號

別紙添付 (已號用紙)



外務省

15.1.8



9590

大正十五年一月四日著

在宜昌 浦川領事代理來電

日清汽船德洋丸當地ヨリ重慶へ上航ノ途一日午前九時半新灘ノ上四  
哩左岸ノ洲ニ乗リ上ケ緊留中同夜十時左舷ニ傾斜シテ倒レ半舷露出

時運ミ船ノ波水甚クシクナク

ス人命異狀無シ荷物見込無シ郵便物半分揚ケタル旨同船長ヨリ當地  
同社出張所へ入電アリ救助方法ニ關シテハ更ニ船長ヨリノ來電ヲ待  
タサレハ詳細不明ナルモ場所柄普通ノ手段ニテハ救助至難ト察セラ  
ル尙船客ハ極強擊ノ恐レアルニ付特別保護方地方官憲ニ直接依頼ノ  
爲當館ヨリ田中警部ヲ日清社員ト同行二日晚出發現場ニ出張セシメ

タリ  
此日或裝兵官遣  
ヲ救止  
リノ事ト

(已 號 用 紙) 國 納

外 務 省

軍務局

海軍次官  
軍令部長

上海駐在武官  
右 七一五〇 安 宅 着

當地日清汽船会社入電ニ依リ、德陽丸ハ溯江中  
一日午前九時半新灘上流約四哩ノシヤンチ左岸、暗  
岩ニ触礁シ右岸ノ洲ニ乗上ケ繫留中同十時左  
舷ニ傾斜シテ倒レタリ人命ニ損害無シ  
宜昌其他ニ於テ救助材料派遣準備ヲ急キツ  
アルモ船体引揚ハ餘程困難ナルカ如シ尚土匪ニ  
備フル為堅田ニ武装兵派遣ヲ願出タリト、コト  
ナリ

同日